

(様式5)

令和6年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立長谷川羽曳野学園（児童心理治療施設）
施設所管課・担当	こども青少年局こども家庭課要保護児童グループ
条例上の設置目的	児童福祉法第43条の2に基づき児童心理治療施設を設置するもの
業務の概要	児童養護施設の管理運営及び児童心理治療施設の管理運営
成果指標	①退所児童の家庭復帰後半年間の現況把握率 ②苦情解決第三者委員会による苦情解決率
目標	①100% ②100%
指定管理者名	（社福）みおつくし福祉会
指定期間	平成31年4月1日～令和9年3月31日（8年間）
評価対象期間	令和6年度分

2 管理運営の成果・実績

成果指標	①	②
数値目標	100%	-
年度実績	100%	-
達成率	100%	-

利用状況（各年度3月31日時点）

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	37	37	0
稼働率	92.5%	92.5%	0.0%

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	338,256,673	319,792,433	-1,766,327	入所児童数は同じだが、計画は本市算定による指定管理代行料(措置費)の予算額であるため
	計画	340,023,000	317,948,000		
利用料金収入	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
その他収入 （自主事業収入）	実績	1,836,292	2,687,440	240,292	
	計画	1,596,000	2,500,000		
合計	実績	340,092,965	322,479,873	-1,526,035	入所児童数は同じだが、計画は本市算定による指定管理代行料(措置費)の予算額であるため
	計画	341,619,000	320,448,000		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	233,579,624	212,170,209	233,579,624	
	計画				
管理運営費	実績	72,658,028	70,191,482	72,658,028	
	計画				
その他事業費 （自主事業支出）	実績			0	
	計画				
合計	実績	306,237,652	282,361,691	306,237,652	
	計画	0	0		

4 管理運営状況の評価

(1) 成果指標の目標達成状況

評価項目	市の評価	特記事項
①	B	自立支援担当職員を配置し、適切に対応されたことにより、目標を達成している。
②	-	対象件数はなかった。

(2) 市費の縮減

市費縮減に係る取組状況	市の評価	特記事項
児童入所施設等措置費の基準に基づき業務代行料を支出しており、市費縮減については不可能	B	

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	市の評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービス向上		
施設の管理運営	A	施設の老朽化が進んでいるが、日常的な点検整備を欠かさないことで、入所者の安全に配慮されており、予防保全にも十分取り組んでいる。 併せて、措置費における加算職員等、処遇向上のための職員加配に積極的に取り組んでいる点は評価できる。
施設の維持管理		
職員の配置状況		
安全管理		
市民サービスの向上	A	平成31年度に直営から指定管理制度へ移行した施設であり、初年度は児童の入所実績も低調であったが、積極的な受入れを推進し稼働率も向上している。
利用者満足度調査		
サービス向上策の実施		
利用促進策の実施		
事業計画の実施状況	B	児童入所施設運営として適切かつ良好である。
事業の実施状況		
施設の有効活用	B	同種別の施設や、同圏域内施設との連携を通じて職員のスキルアップにや新たな情報確保に努めるとともに、地域子ども会への参画など果たすべき役割を担っている。
地域との連携		
他施設との連携		
社会的責任・法令遵守	B	適切かつ良好である。
勤務労働条件の確保		
個人情報保護対策		
環境への配慮		
就職困難者の雇用		

5 外部専門家意見

・職員の専門性向上を図るため、法人主催の人権研修や、全国・近畿児童心理治療施設協議会や市児童福祉施設連盟など関係機関が主催する研修への派遣が積極的に行われている。さらに、学園独自の「職員勉強会」やケーススタディ、日々のスーパービジョンなど、多様な学びの機会が設けられており、職員自身の成長と支援サービスの質の向上に繋がっている点は特筆に値する。

・隣接する大阪市立長谷川小中学校とは、施設種別変更への理解促進や入所児童の特性に関する勉強会の開催、担任教員と生活職員の連携、月1回の連絡会による情報共有などを通じて、学校と施設が一体となった支援体制が構築されており、こどもの安定した生活と学びを支えている。また、柏原市の「社会を明るくする運動」には推進委員として参加するなど、地域との連携にも積極的に取り組み、こどもたちの社会性を育む良好な外部環境づくりにも寄与している。

・職員の実践目標を具体的な言葉で「五か条」と説明し、施設支援の基盤として示しているところに好感が持てる。また、加算職員の積極的雇用や研修の取組は、十分に評価できる。こどもの性問題等のリスクマネジメントもしっかりと取り組んでいる様子が窺える。しかし、こども同士のあるいは職員からこどもへの不適切な関りは「起きるもの」という前提で、常に予防体制を取っていくことが必要であるが、学園独自の『職員勉強会』等の職員のコミュニケーション活性化の取組は評価できる。入所施設では、教育的配慮・制度的配慮（例えば、外出簿に時間や行先、児童名等を記入して出かけるなど）・医療的配慮等の制約で、ルールなどがあるかと思う。どこの施設でも、苦情の申し立てはあまり数として挙がってこないが、日頃のこどもの思いや声を聴くことをこれからも大事にしていきたい。

・事業報告書では令和6年度の苦情が0件と報告されている。しかし、業務チェックシートの8月分には「苦情・要望等への対応(10件)」と記載があり、その内容は「意見箱より内容から要望として取り扱った」と備考にある。これは、形式的な「苦情」としてカウントされなくとも、10件の「要望」があったことを示している。これらの「要望」をどのように集計し、具体的な改善策に結びつけ、その結果を報告書に反映させるかのプロセスをより透明化し、積極的に活用することで更なる支援の改善に繋がれると考える。

6 総合評価

評価項目	評価	所見
成果指標の目標達成	B	目標達成している。
市費の縮減	B	児童入所施設措置費を運営財源としているため、市費縮減は不可能である。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上	A	児童を積極的に受け入れ、関係機関との連携を図るとともに、職員の知識・技術の研鑽も積極的に進めている。今後は、形式的な「苦情」としてカウントされない「要望」を活用し、さらなる支援の改善に繋げることを期待したい。
施設の管理運営		
市民サービスの向上		
事業計画 施設の有効活用		
社会的責任・市の施策との整合	B	適切かつ良好である。
総合評価	B	